

第一个吃螃蟹的人

華東師範大学 5月報告書 デザイン4年 杉山歩乃佳



五月初めは連休を利用して杭州に行ってきた。まず、連休・祝日に観光地へ行くことをおすすめる。ロックダウン明けの今年はいくらか、人が多すぎて旅行どころではない。観光地でのバスやタクシーは人で溢れかえり乗れない。バス乗り場は並ぶという文化ではないので我先にと押しかけるカオス状態。新幹線のチケットは二週間前から販売開始なのだがすぐ完売、長距離列車も完売。キャンセル待ち状態であった。キャンセルされたチケットも通常価格よりかなり高い。私は随時チケットをとり続けていたわけではないし、SNSで互いの近況をみている程度だったので、覚えてくれているか不安だった。あと、五年前と顔が違いすぎて本当にホームステイした子が確信できなかった(笑)。

一回目は高一の時の友達と西湖へ。西湖は白蛇伝や詩の舞台として有名な世界遺産である。3時間並んで、閉業ギリギリに西湖のボートに乗ることができた。ガ

ヤガヤしていた乗り場から静かな湖の上で、ようやくゆっくり落ち着いた。そして、手漕ぎによる船の揺らぎが心地よい。夕日も綺麗で、昔の詩人たちがここで詠いたくなった気持ちがわかった。

二日目・三日目は高三の時の友達と遊んだ。杭州へ北京をつなぐ大運河周辺は蘇州のように昔ながらの建物で整備されていた。大運河は「大」がつくほどの運河ではないが、北京まで続く世界最長の運河だと思つと、これを作った昔の人はこんでもないと感じた。



そして、今回の友達の家にホームステイさせていただいた。家族がとても歓迎してくれ、暖かい気持ちになった。普段の学食とは違う、地元の人がよく食べる美味しいご飯をご馳走になった。そして、お母さん手作りの餃子と、とうもろこし粥が美味しかった。

あつという間に時間が過ぎ、再会を願って別れた。長年会っていなかったが、再会してすぐに仲良くなれた。このコロナ禍何しているのか、大学生活のことなどいろいろ聞きたいことがあったので、人混みによる待ち時間が苦にならずよかった。あと一人、私が杭州でホームステイした時の友達がいる。彼女は高三で大学入試のため今回は会えなかったが、夏休みに会いに行こうと思う。その時、また二人の友達に会えたらなと願っている。とにかく、再会で本当に嬉しかった。

それから、今月は中国で有名な舞踊劇『只此青绿』をみてきた。旧正月の前夜には劇を見るのが定番出そうで、『只此青绿』は昨年放送された。北宋時代に描かれた『千里江山図』がテーマだ。セリフなしの劇ということ、開演前に友人が解説してくれたおかげで楽しむことができた。ダンス・音楽・舞台装置・演出全てがうまく



く組み合わさりとても感動した。ミュージカルとは異なるので、歌がうまい、ダンスが激しくてカッコいいとかではなく、見たことのないジャンルの劇で面白かった。驚いたのがカーテンコールが五回もあり、最後のハケまで音楽演出にこだわっていたことだった。なかなか終わらないカーテンコールにお客さんは困惑していた(笑)。そして、上海の豫園に行ってきた。真っ赤な中国建築と柔らかな光がまるでジブリ。綺麗すぎて、ここにこれば絶対に中国を感じられると思う。観光客向けの店がたくさんあり、夜遅くまで賑わっている。ぜひ行ってみたい。

授業 图像芸術 (2年生 / 公共芸術)

图像は画像・映像を指す言葉で、アートの画像作成、写真作成、映像作成など作りたいものを個人制作をする。この先生は授業をする気がないのか、教えることは全くなく、個人制作という名目の授業キャンセル、授業中にフリスビーしたり、人狼したりと目的がわからなかった。今までで一番の超楽単だった。授業に来ない人も多く、最終発表もなかった。クラスメイトがどんな制作をしたのかわからないまま…とりあえず課題は提出したので、載せておこう。



授業 ドキュメンタリー撮影 (1年生 / 映像)

ドキュメンタリー写真とは何か、スナップ写真やストリート写真とはどう違うのか議論を中心に学ぶ。ベテランの先生なので経験・知識が豊富だ。そして、課題テーマを決め、随時撮影していく。私は「中国の公園での幸せな老後」をテーマにした。写真のアドバイスより、テーマを伝えるにはどのような場所に行き、どのような状況が欲しいのか道しるべを示してくれる。授業はよかったが、先生がタバコを吸い続けるので授業後は体調が悪くなるのが難点だ…



食べ物 飯館編

飯館は路面店のような庶民的で安い飲食店のことである。中国にはこのような安い飲食店が多いので自炊をせず、外食が当たり前になっている。15元の牛肉麺、10元のワンタン、5元の朝食など、とてもお得だ。そして大人数で食べるような飯館では生きた魚や捌きたての肉など食材を並べていることが多い。日本にはない食材を知ることができて面白いが、見たくなかった食材もある…私は生きた魚を見るのが苦手なので水槽があっても見ないようにしている…



奇怪な食べ物 蛙・何かの卵

杭州の飯館で見えてしまい、食欲減退した食べ物だ。左の食材は蛙である。しかも大きい蛙と小さい蛙が大量に…見た目がそのまま蛙…そして、市場で生きた特大蛙たちが網に入れられ、ゲコゲコ鳴きながら販売されていた時は衝撃的だった。味は美味しいらしい。調理前の蛙さえ見なければ食べられそう…そして右上、見たことのない色の卵…たらこと同じ種類の食べ物と思えば直視できるが美味しそうに見えない…海外で見た目を理由にタコが不人気なのと同じことなんだろう…



長距離列車

火车と呼ばれる長距離列車には硬座、硬いベッド、柔らかいベッドなどさまざまな席がある。硬座は背もたれを曲げることができない。そして、今回乗った硬いベッドでは3段式になっており、中段と上段は狭すぎて座ることができない。夜中の移動なら寝るだけなので問題ないが、座りたくても座れないのはキツイ。そして、上に行くまでに他人のベットを登っていく(笑)。追加料金を払うか、運がよければ下段のベットを利用できる。柔らかいベットは快適ではあるが値段が高い。

